

織羅部落

花蓮・玉里

織羅
米86

クズウコンのふるさと、助け合いの「mipaliu」

織羅部落は花蓮県玉里鎮の春日里に位置し、秀姑巒溪とその支流がここを流れ、県道193号線も通っています。集落には閩南系漢人、客家系漢人、先住民アミ族など様々な人々がともに生活し、多様で活発、賑やかで独特な集落が形成されています。米、葛鬱金（クズウコン）、金多児筍（タケノコ的一种）が織羅部落の三大作物で、ここに住む人々の生命に対する畏敬の念と、環境にやさしい生活が独自の産業を支えています。

織羅部落では、助け合い信頼し合い、心を団結させて農業を行う「米86」チームが結成されています。「米86」はアミ語の「Mi-pa-liu」を由来とし、収穫期に労働力の不足を補うために手伝い合う「換工」を意味しており、伝統文化の助け合いの精神を象徴しています。「米86」という名称は、伝統的な文化経済や感情の交流の重要性を反映しているほか、チーム全員が身を持って自然の生態を尊重し、大地で耕された作物が消費者の食卓へと届くまでの全ての繋がりを重んじているというものです。農家の人々はそれぞれ、故郷を想い、農耕への夢を抱き、励まし合いながら前に進んでいます。